

渡良瀬大橋工事概要

平川保一

本橋は群馬縣東南部館林町と栃木縣西南部佐野町とを結ぶ重要府縣道館林佐野線に位し、渡良瀬川改修區域内に架せる最長の橋梁にして、工費貳拾五萬八千七百參拾四圓、群馬栃木兩縣折半負擔、工事を群馬縣にて擔當施行せり。

工事は昭和八年度九年度の二ヶ年繼續費にして夫々手續を了し、昭和九年一月下部工事に着手したり。然るに偶々群馬縣を中心に栃木埼玉三縣に亘り陸軍特別大演習舉行せられ、本橋の價値一層重要となりたるを以て其時期迄に竣工すべく鋭意其後の計畫を進め二月上旬鋼材工事を起工し更に橋床工事を四月起工し此處に於て現場及橋梁製作工場は一齊に工を進め鋭意督勵努力の結果工事は豫定通り進捗し九月下部工事完成、上部鋼材工事は八月上旬恰も危険な

る出水期を侵し架設に従事し、彼の九月廿一日の大風害にも幸に被害なく十月中旬鋼材の鉸鍊を了り、一方橋床工事は部分的に進捗せしめ夫々各工事と連絡を保ち、遂に下部工着手以來僅に十ヶ月の記録的期間を以て十月下旬竣工を見たり。

此の間監督請負人従業員は特別大演習を目標に晝夜兼行の努力は眞に筆舌に盡し難きものありたり。

設計の概要

本橋架設地點附近に東武電車橋あり、又支流才川に合流するあり此等治水上の影響を慮り才川合流點の上流に架設するを適當と認め、低水敷に樺橋洪水敷に鉸桁橋を夫々川幅に應じ架設することせり、其概要左の如し。

左記

高欄 鑄鐵材 橋面上九〇釐

一、位置 府縣道館林佐野線

群馬縣邑樂郡渡瀨村大字下早川田、

栃木縣足利郡吾妻村大字小羽田入

會渡良瀨川

二、延長及幅員

全橋長 五四五米六

内繋拱 一二二米四

钣桁 四二三米二

幅員 五米五

三、橋體

型式

繋拱 二連、支間六〇米

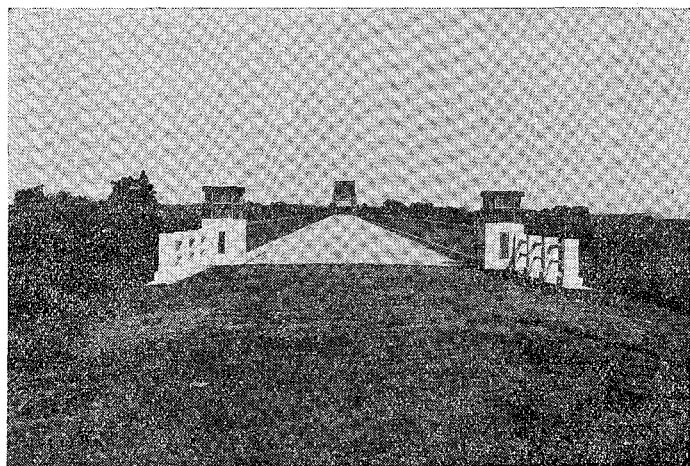
钣桁二八連支間一四米五 二六連

支間一四米六五 二連

橋格 三等橋

橋面 鐵筋コンクリート床版上へ無砂コンクリート鋪裝

米、杭木長七米三



親柱は花崗石及多胡産砂

石積とす、各親柱の頂部

に灯室を備へ繋拱の入口

に「ハイウエー」を取付

け照明の設備をなす。

四、橋臺 二基 重力式コンクリ

ート工

基礎地盤、軟質粘土、杭

木基礎とす。

五、橋脚 二九基 内井筒基礎三

基、杭木基礎 二六基

(イ)井筒基礎橋脚 三基高一八

米、軀體高六米、井筒深

一二米

(ロ)杭木基礎橋脚一九基、高八

(ハ) 杭木基礎橋脚 七基、高八米、杭木長七米三

六、主要材

- 鋼材 六五八應四三一
 - 鑄鋼材 八應二八八
 - 鑄鐵材 七八應八八五
 - 鐵筋材 一三八應〇五二
 - 石材 八立米三一六
 - セメント 五、九七〇樽四
 - 硫酸白土 一、六四二袋
 - 砂利 三、一八五立米六
 - 砂 一、六一四立米一
 - 杭木 六四二本
- 七、使用職工人夫(現場)
- 延 一六、四六〇人内職工 五、〇五五人
 - 人夫 一一、四〇五人
- 八、工事期日
- 昭和九年一月一日着手

昭和九年十月卅日竣工 日數三百三日

九、工事請負人

下部工事及橋床工事 高崎市 徳田鹿藏

上部鋼材工事 東京市 横河橋梁製作所

工事名	工事費	摘要
橋臺橋脚工事	六、〇七〇・三・三	橋臺三基 橋脚井筒基礎 三基 杭木基礎 二六基
鋼材工事	一四、〇九六・〇〇四・三	構桁 三〇應四六六 鋼桁 三應八三三 一應當三六・元一平米當〇・四七 一九八・七
橋床工事	三、八〇〇・一〇・三	
雜工事	九〇元・一〇	
用地補償費	七二五・五	
計	二三、七六・五八・三	

工事費 橋面一平米 當り工費

費 (監督費雜費を含まず)

橋長五四五米六、幅員五米五 平積三、〇〇〇平米八